

## 研究課題名「前立腺癌治療が尿道膀胱機能、サルコペニアに与える影響」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

名古屋大学医学部附属病院に2007年1月から2017年3月までに前立腺癌に対して外科的治療、内分泌治療を受けられた方で、尿失禁の評価や下部尿路症状に関する質問票評価ならびにCT検査（画像検査）を受けられた方

### 2. 研究目的・方法・研究期間

高齢化社会を迎えて、前立腺癌の発生頻度は上昇しており、外科的治療、内分泌治療を受けている方も増加していますが、外科的治療後に起きる尿失禁や勃起機能障害は、生活の質に影響を及ぼす合併症であり、これらの合併症で困られている方も多く存在します。また内分泌療法（去勢療法）は一般的に長期にわたって施行され、最近では、長期間におよぶ去勢療法が、全身の筋力低下（サルコペニア）の原因となり、転倒や骨折、認知機能に対して影響を及ぼすことが報告されています。このように、前立腺癌治療における合併症は、高齢化社会において、健康寿命を短縮させる原因となり、適切な対策が必要ですが、まだ泌尿器科領域における関心は低く、実際、尿失禁やサルコペニア発生のメカニズム、発生に関与する危険因子などについては、十分に検討されていないのが現状です。

このような背景から、前立腺癌外科的治療の代表的な合併症である尿失禁、また内分泌治療の長期合併症であるサルコペニアに対して、これまでの臨床データをもちいて後ろ向きに検討を行い、それらの発生頻度やリスク因子、発生機序を解明することを当研究の目的としています。具体的には、①外科的治療と内分泌治療（去勢療法）を受けた患者さん群での、サルコペニア発生頻度の検討、②前立腺癌治療におけるサルコペニア発生に関与する因子の検討、③外科治療での術式別の尿失禁、尿道膀胱機能の変化に対する検討、④外科的治療における尿失禁発生に関与する因子の検討、を行う予定であります。

なお研究期間は、生命倫理委員会での研究実施承認日から2022年3月31日を予定しております。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

これまでの通常診療で取得した下記の情報を、個人情報をも匿名化した上で研究に用います。なお当研究のために、新たに試料や情報を提供することはありません。

- 患者背景： 性別、年齢（生年月日）、体重、既往歴、合併症、主訴、

- 生活歴（喫煙）、職業、初診日 等
- バイタルサイン： 血圧、体温、体重、脈拍 等
- 血液検査： ヘモグロビン、白血球数、好中球数、赤血球数、血小板数 等
- 生化学検査： 総タンパク、CRP、LDH、ALP、AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、BUN、クレアチニン、eGFR、血清Ca、総ビリルビン、アルブミン、Na、K、Cl、アミラーゼ、PSA（前立腺特異抗原）、テストステロン、 等
- 尿検査 比重、pH、尿蛋白（定性）、尿糖（定性）、潜血、尿沈査、 等
- CT 検査所見： 臍レベルでの腸腰筋の面積、 等
- 下部尿路症状質問票： IPSS （国際前立腺症状スコア）  
IPSS-QOL、（国際前立腺-生活の質スコア）  
OABSS （過活動膀胱症状スコア） 等
- 尿流動態検査所見： 最大尿流率、排尿量、残尿量、尿道機能（最大尿道閉鎖圧、機能的尿道長）、 等
- 尿失禁検査： パッドテスト記録、排尿日誌、 等

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

下記、研究担当者 松川宜久までご連絡ください。

研究事務局： 名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科

名古屋市昭和区鶴舞町65

電話番号 052-744-2985

FAX 番号 052-744-2319

研究責任者、研究代表者：

名古屋大学医学部附属病院泌尿器科 講師 松川宜久